



※一般質問の内容は議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。
QRコードを読み取り、令和2年6月定例会を選択すると
一般質問が視聴できます。



こんどう ちづる
近藤 千鶴 議員
(令和)

新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、将来を見据えた事業等の見直しについて

問 令和2年度の市立病院への財政支出はどのくらいを想定しているか。

病院長 当初予算ベースでは14億円を予定。コロナの影響により収益が伸びないと予想。第2波、第3波等で減少の場合、追加支援も予測。

問 市立病院の人件費・材料費・薬品費の割合が高いがどう考えるか。

部長 材料費を見直す検討を始めたい。

問 市立病院の経営にコンサルタントをいれていったらどうか。

部長 コンサルタントをいれても、人件費を減らす等の一般的な回答（助言）しか得られない。

意見 コロナで病院を取り巻く環境が大きく変わる。発想の転換を考えていく時だ。



なかむら けんいち
中村 憲一 議員
(令和)

新型コロナウイルス感染症対策が変化をもたらした行政サービスの在り方について ～コロナ禍を変化のチャンスとするために～

問 車両による避難は憚られていたが、プライベートスペースが確保できる自家用車活用を前提とした避難所設置を提案するがいかがか。

部長 より手軽にプライベートスペースを確保でき、ワンボックスタイプの自家用車を多くの家庭で所有していることから有用と考える。今後、自家用車用の避難場として整備をする場合には、水、トイレ及び電源などの設備の整備の必要性の検討を行い、関係部局と調整したい。

問 保健所と感染情報の共有に課題はなかったか。誹謗中傷、風評被害等は把握しているか。

部長 国の基準に則り、個人情報保護に留意した上で感染リスクを最小限にするために必要な情

問 臨時交付金で、4月28日以降に生まれた子どもに、特別定額給付金に代わる祝い金を支給できないか。

部長 現在のたすき帖、出生記念樹などで対応。

問 バス会社、タクシー会社への補助金を。

部長 国の支援もあり、市として各方面での施策を実施するので補助金は考えていない。

問 第2波に備えての財政確保は。

部長 国の第2次補正予算分の交付金を活用。

問 コロナ禍で市税の減収、市立病院の財政危機、税金猶予、生活保護申請の増加などの中、（仮称）郷土史博物館構想は今はやるべきでないと思うが市長の見解は。

市長 予算を可決いただいている。見直しどころの騒ぎでなく、今後も信念を持って進めていく。

意見 市民の生活と命が一番大事。市民がコロナ禍の中で大変不安を持っている。市長の前向きな答弁を期待している。市民のことを一番に考え、この（仮称）郷土史博物館構想を見直すという市長の言葉が出たらよかったと思う。

報を公表しているので、課題はなかったと認識。SNS等での誹謗中傷、風評被害等は把握している。第2波、第3波に向けてこれらを防止するために、保健所とのやり取りの中で、許容範囲内で情報提供できる形があれば検討する。

問 今夏の水泳授業の取り扱いは。水泳授業の抜本的見直しのチャンスと考えるがいかがか。

教育長 児童生徒の濃厚接触対策を講じることが困難であることから、安全を確保することが難しいため、小・中学校において今年度は実施しない。今回の水泳授業の中止をよい機会として捉え、今後、水泳授業の実施の外部委託や市民プール、民間施設の活用等、水泳授業の抜本的な見直しについても研究していきたい。

問 コロナ前には戻れない中、コロナ後の富士宮のニューノーマルをどのように構想するか。

市長 デジタル化を柱に、官民に新しい可能性が見えてきた。このことは新たなチャレンジであり、人口減少や少子高齢化を抱える地方にとって、東京一極集中から地方へ人の流れを変えるチャンスであると捉えている。